



## 集会施設の設計をめぐって——見えてきた合意点

老朽化した庁舎の建設を待ち望む声にこたえ、町は約10年前から庁舎建設の基金を積み立て、12億円を越えた今年度ようやく建設計画を具体化しました。厳しい財政状況のなか無駄のないスリムな庁舎をと、議会で議論されてきた経緯もあり、集会施設はつくられない予定でしたが、都への要望が受け入れられ建設されることになりました。

8月7日の全員協議会で、はじめて設計業者から詳しい説明があり、集会施設の座席については可動式ですすめたいとの意向が示されました。床から階段式にせりあがってくる可動式座席が332席と、2階の固定式座席とあわせて500席のホールになるというもので、賛否様々な意見や質問が出ましたが強い反対はなく、設計内容を評価し賛成の意が示されました。午後には、島内70の文化活動グループ「文化ホール建設を進める文化団体の会」(=会)の代表らにも説明がありました。会もおおむね設計案を了承し、一応の決着を見ました。これまでの経過を振り返ってみたいと思います。

**町は** 町は庁舎に併設される集会施設については、防災機能を重視した平場の「多目的ホール」であることをコンセプトとしていました。災害時の避難場所と物資の仕分けスペースとしての機能のほか、イベントやパーティー会場として、さらに公民館的な機能も含め、広く住民の要望に応えるため、客席は可動式にするとしてきました。

**文化団体は** 一方、会は集会施設の建設を歓迎し、これまでの活動が発展していくような本格的なホールの建設を要望してきました。また、初期コストやメンテナンスに費用がかかり音響にも不安が残る可動式より固定式の座席を望んでいました。会は、町の担当者と何度か直接話し合い、要望書を町や議員に届けて支援を仰いできました。今回の説明を受け、「多くの制約の中で、楽屋や練習場など会の要望が盛り込まれた内容となっており、設計者の熱意と誠意を感じた。意見交換は今後も持つということで合意もとれた。ただ、もっと早い段階から話し合いの機会がほしかった」と話していました。

**議会は** 7月14日の全員協議会では模型を前に設計の概要が示され、議員の多くは「文化団体だけでなく広く住民の要望をいれるべきだ」「何にでも使えるように平土間にすべき」という意見でした。私は、「多目的であれば中途半端なものになる。町の言う多機能は他の施設でも代用できる。後々の住民の負担も考えれば固定式が望ましい」と発言しました。7月18日には会と議員との意見交換会がもたれましたが、参加したのは私を含めて4名(田村六郎、伊勢崎和鶴右衛、菊地綾子の各議員)だけでした。

**私の考え** 多くの要望が盛り込まれた会の要望書を見て、すべては実現困難だと判断した町や議員の考えもわかります。しかし、会の要望があったからこそ設計業者は集会施設としながらもホールの要素を十分盛り込んだ案を提示したのであり、会の思いと努力は活かされたと思います。今後は、この施設をどのように使うかが大きな課題になります。生涯教育の場として文化活動の拠点として、ホールの役割は益々大きくなるでしょう。利用方法を含めた運用については議会できちんと議論していきたいと思います。



# 2009年6月議会 一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



## 1. えこ・あぐりまーとを坂上地区の観光拠点に

えこ・あぐりまーとは、地熱を利用した施設で収穫された農産物を展示販売する場所としてつくられました(地熱利用農産物直売所)。まさに坂上地区の観光の拠点として期待された施設であったはずですが、現状は来客数から見ても島外・島内あわせて2万人弱であり、売り上げについても、観光の拠点といえるにふさわしい状態にはありません。あらためて、この場所の利用を促進するための施策を、町と住民が協力して考えていくべきだと思いますが、町の考えは。

**産業観光課長** えこ・あぐりまーとは「展示ハウス」「農産物直売所」「喫茶コーナー」に分けて運営している。運営部会の方々は、ハウス内の説明、周辺地区のガイド、講習会などにご苦労されており、感謝している。今後運営内容については、部会の方々と相談しながら検討していきたい。

**幸子** まず、自主運営の現状を分析しながら、会の枠を広げて会員を増やす方法を探り、根本的に会のシステムを改善すること。喫茶機能の枠を広げて弁当の販売を可能にすること。周辺にある観光スポットを関連づけて効果的に宣伝するためのパンフレットをつくること。以上3つの提案をしたいと思いますが、町はどう考えますか。

**産業観光課長** 部会の運営や弁当の販売については、部会との話し合いの中で決めていきたい。パンフについては、補正予算で対応したいと考えている。

**幸子** 補正で対応するという町のお答えはうれしいです。部会との話し合いはいつ頃を予定していますか。

**産業観光課長** 夏までには開きたいと考えている。

## 2. 飼い犬フン害防止条例の制定を

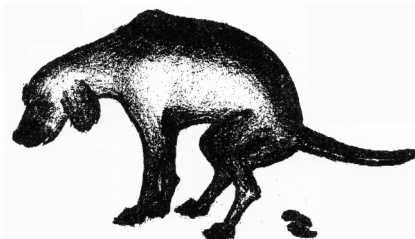
犬のフン被害は、これまで何度か議会で取り上げられてきましたが、町も都も、飼い主のモラル、マナーの問題だとし、広報などで注意を呼びかける以外に具体的行動はしてきませんでした。しかし、最近芝生の広場が増えており、犬によるフン被害は増加の一途をたどっています。町独自に条例をつくり、飼い主の責任を明確化する必要があると思います。既存の条例に加えたり修正したりする方法もあると思うが、町の考えは。

**健康課長** 町、都としては、町広報や保健所だより、支庁の広報紙「支庁の風」やホームページなどで、飼い主のモラルとマナーについてPRしており、また、狂犬病予防注射の際にフン持ち帰りのパンフや袋の配布を行なっている。

もし条例を制定するとなると、実効性の問題がある一方で、監視型社会になるとか、環境意識に対する町民のイメージダウンになるなどの恐れも出てくる。町としては、条例を制定するよりも、町、都、議会、住民一体となって、飼い主に対する飼育マナーの向上に向けた対策をとっていきたいと考えている。

**幸子** 既存の条例に加えたり修正したりする方法もあると思うが、町の考えは。

**健康課長** 町としては、条例を制定するよりも、支庁と相談しながら看板の設置、広報や防災無線などによる住民への周知に努めたいと考えている。



## 町の観光対策 ————— 観光振興実行委員会の課題

観光振興実行委員会（＝委員会）では、低迷する島の観光をよみがえらせる様々な施策を長年にわたって考えてきました。しかし、多くのアイデアが提案され、毎年多額の資金を投入して観光客誘致に力を入れてきたにもかかわらず、来島者数も売上額も減少の一途をたどっています（表1）。

表1. 過去の実績（観光振興実行委員会資料より）

年	来島者数(人)	売上額(百万円)	平均宿泊数(泊)
平成10年	123,024	4,076	1.5
平成11年	125,657	4,066	1.6
平成12年	97,207	3,411	1.8
平成13年	119,174	3,860	1.6
平成14年	119,940	5,743	1.7
平成15年	103,701	4,577	1.8
平成16年	92,828	3,802	1.7
平成17年	80,455	3,566	2.2
平成18年	96,058	3,717	1.8

### 委員会の課題

6月17日に開かれた今年度のはじめての委員会では、「八丈島観光対策アクションプラン」（平成20、21、22年度）が資料として出され、今年度の計画が説明されました。しかし、その資料は、委員会の事務局である町がつくった計画であり、委員会で議論されてもその年の計画にはもはやほとんど反映されないという問題が指摘されました。委員会の存在意義が問われるのもこの点にあると思います。

委員会では、計画される前に委員の意見が反映されるような態勢、仕組みにしていこうということになりました。また、委員会に「丸投げ」されていた各種イベントについては、かかった費用と集客数を検証し、効果のなかったイベントは縮小し、効果のあがったものについては維持または増額することも必要という点でも委員の意見が一致しました。私も同委員会や作業部会でこうした意見を発言してきましたが、各部会での議論がようやく町の施策に生かされるようになってきました。

### 欠航対策

そのひとつが欠航対策です。八丈島は、雨が多く、霧や強風で飛行機が欠航する。旅のよしあしが天候に左右され、観光客を落胆させることがあります。これまで宿泊部会を中心に検討され、欠航時には、宿の手配（観光協会）や宿泊費の割引（各宿泊施設）などで対応してきました。今回は、食事の提供をメインに欠航滞在者の費用軽減をはかろうと、町が具体策を出しました（予算額200万円）。町としては、公平性が保たれたサービスであることと、八丈のもてなしの心が伝わる施策であることを重視したいということです。（次頁へ）

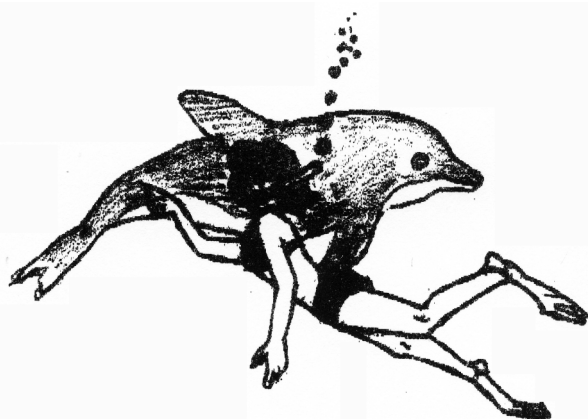
(前頁より続く)

町は、当初「観光客との交流会」を考えていましたが、すでに中之郷の有志が観光客を招いて交流会を開き、好評を得ていることもあり、民間と競合するサービスを町が提供するのにはふさわしくないということで、「クーポン券」(1000円の食事券)が提案されました。委員会では「様々な場合を想定し、それぞれに対応はできるのか」「周知の方法はどのようにするのか」「1000円は安いのでは」など様々な意見が出ました。私はこの欠航対策は、同委員会の長年の懸案事項であり、ようやく実現できたことを評価したいと発言しました。9月以降から実施される予定ですが、島を訪ねた方々に出来る限りのもてなしをしたいものです。

## 御蔵島の観光事情

八丈島を含む伊豆諸島の観光が低迷しているなかで、御蔵島は意気軒昂です。ここ数年で人口が40人近く増え310人になりました(8/1現在、村役場調べ)。人口増加の理由は、ただひとつ。島の周辺に定住している数百頭のイルカの存在です。

御蔵島では、イルカウォッチングが人気で、宿泊施設は限られていますが観光客は増える一方です。10年前にはじめて島に定食屋ができたのを機に、現在、飲食店(居酒屋も含む)は5軒に増えました。今年も仕事で島を訪れると、パスタとジェラート(アイスクリーム)の小さなレストランができていて、若い女性客でにぎわっていました。みやげ物も置いてあり、さながら小笠原にいるかのような錯覚に陥りました。観光客と人口の増加で、こうした業種の参入が可能になったのでしょうか。また今年、観光資料館が建てられました。島に多い坂を利用した3階建ての洒落た建物で、3階は子供たちの合宿などにも利用できるそうです。



御蔵島の交通アクセスは八丈島よりさらに不便で、日に1便の定期船とアイランドチャトルのヘリコプターのみ。船の欠航率は極めて高く、住民を悩ませています。欠航対策はあえてとっていないといいます。島に来る時点で、多少の延泊は覚悟しているのかもしれませんが。島別の一人当たりの消費額(\*)も、単純には比較できませんが、七島新聞によれば4万円を越えています。学生は比較的少なく、働いている独身女性が客の半数を占めるそうです。観光客のニーズに応える御蔵島の観光対策には、八丈島の観光の将来に参考になるものがありそうです。

(\*) 大島36,440、新島21,660、式根島26,738、神津島17,982、八丈島38,703、小笠原 48,988 (単位円、平成18年観光課資料より)

## 編集後記

朝日新聞に八丈島の光るキノコのこと掲載されていました(7.31朝)。タイトルは「島へ行こう!」。種類の多さが全国随一であることや、観察場所や方法についてのガイドのほか、ヘゴの森(「ジュラ紀の森」とネーミング)も紹介され、旅人を島へいざなう素晴らしい内容でした。光るキノコは、自然豊かな八丈ならではの貴重な観光資源です。各家庭の庭先にも増やして島中を光るキノコでいっぱいになったらいいですね。

さちこのニュースレター  
第二十七号 / 二〇〇九年八月  
編集・発行 奥山幸子  
イラスト 奥山幸子